

進路たより



◇ 夏本番！進路実現に向けて

期末テストが終わり、3年生にとってはよいよ就職試験や入学試験が目の前に迫ってきました。進路実現に向けて自分の「進路スケジュール」をもう一度チェックしてみましょう。

試験申込みや必要書類の提出など大事な手続きのミスがないように、余裕を持って事前準備をしていきましょう。

特に、進学の人にとってこの夏は志望動機を完成させ、小論文の練習が本格化するときです。後述の小論文に関する内容をよく読み、文章を書くことに慣れていきましょう。

◇ 面接の準備を始めよう！

◆ 4つの「M」の意識が土台になります！

皆さん、日常生活での言葉遣いや人前での立ち振る舞いは大丈夫ですか。

日々の学校生活の中からも、こうしたマナーを学び、身につけることができます。日常生活の望ましいマナーを通じて、相手に思いやりをもって、気持ちよく聞いてくれる話し方や、気持ちよく対応できる態度などを身につけることができます。

あいさつも大切なマナーです。あいさつとは自分から声をかけること。声をかけられてからするあいさつは、返事です。山商生活3年目のみなさんは、相手にも自分にも気持ちの良い笑顔のあいさつができていますでしょうか。

また、職員室や進路指導室などに入室するときから、自分の「マナー磨き」を始めてみましょう。①入室するときは必ず「失礼します。」と言ってから入室する②学年・組・席と名前を名乗る③来室の用件を簡潔に伝える④訪ねたい先生の所在を確かめるといった手順で、相手に要件がはっきり伝わるようにしましょう。

面接本番を迎える前に、4つのM(毎日、自ら、マナーを磨く)を意識していきましょう！

◆ 自分の強みを振り返り、まとめておこう！

面接試験では、作法や話し方も大切ですが、最も大切なことは話す内容です。

自分がどのような体験や努力をしてきたのか、それを通して何を得て、これから何をしたいのか、どのような夢を持っているのかを相手に知ってもらうことが第一です。面接で自分のことを伝えるのに、使い慣れない言葉や、難しい言葉を無理に使う必要はありません。あなたの言葉を使ってできるだけ具体的に自分の経験をアピールができるよう、これまでの自分を振り返り、経験や身についた力、自分の強みなどをまとめておきましょう。

面接の準備をするにあたってキャリアパスポートやフォーサイトに今までの取り組みや工夫を記録してきました。また、面接に役立つプリントや面接指導ノートが配付されていると思います。それらをしっかりと活用して、準備をしていきましょう。

◇ 小論文を時間内に書き上げるポイントは？

例えば「試験時間 90 分で 1200 字の小論文を書きなさい」と問題用紙と解答用紙を手渡されたとき、皆さんはスラスラ書き上げることはできますか。

文章を組み立て、言葉を選び、時間内に書き終えるのは、文章を書き慣れている人でも相当大変です。しかし、大学入試などでは文章の内容はもちろんのこと、限られた条件の中でどれだけ効率的に処理できるかという能力も問われています。そのため、的確に時間配分するコツを身につける必要があります。

このために、いくつかのポイントを紹介します。

ポイント① 自分がどのくらいのスピードで文字を書けるのか計ってみる

小論文課題に指定された文字数を書くのに、あなた自身が何分かかかるか時計を使って一度計ってみましょう。

文字は、なぐり書きにならない程度でかまいません。途中で書き直したり、見直しすることを考えると、計測した時間に 10～15 分ほど加えると、おおよそですが、答案を書くのに必要な時間ということになります。

ポイント② 構想はしっかりと練る

試験時間から、ポイント①で調べた時間を引いたものが、構想を練るのに使える時間ということになります。その時間を使って文章の構想を練ってください。漠然とではなく、具体的に話の流れを決めましょう。どのように話を始めるか、どういった経験・事例を書くのかなど問題用紙の余白に箇条書きのメモを書いてみましょう。内容だけではなく、各段落を何文字、何行くらいにまとめるのか、というところまで詰められるといいですね。

ポイント③ 書き始めたら最後まで一気に書き上げる

構想が決まり、書き始めたら、最後まで一気に書き上げましょう。気を付けなければいけないことは、書きながら考えると新しいことを思いつくので、内容がズレていくことがあることです。友達との会話で、ちょっとした言葉をきっかけに話がどんどん脱線して「何の話をしていたっけ？」となるのと同じことが起こります。

小論文では「何の話かわからなくなる」というのは致命的です。「書いてから考える」、「書きながら考える」のではなく、「考えてから書く」ように心がけてください。

ポイント④ 必ずしも制限字数ぴったりに書く必要はない

「1200 字以内」と言われると「1200 字ぎりぎりまで書かないといけない」と思ってしまう人もいるかもしれませんが、1200 字で書けという課題で半分も書いていないというのは問題がありますが、制限字数の 9 割くらい、1200 字なら 1100 字くらい書けば評価してもらえます。答案が完成した後に数行空きができたからといって、そこに追加の文章を書き足す必要はありません。最初の問題提起から最後のまとめまで、論理的で筋の通った答案であれば、きちんと評価されます。文字数を合わせることで、筋の通った答案を完成させることを優先してください。